

シンポジウム (SUSTAINABILITY WEEKS 2014 – Finnish-Japanese Joint Symposium) に参加してきました。シンポジウムは、フィンランドのロバニエミ市にあるラップランド大学で開催されました。北海道からは小澤丈夫准教授 (北海道大学・建築)、森太郎准教授 (同)、齊藤雅也准教授 (札幌市立大学・デザイン) をはじめとする先生方が参加され、北海道とフィンランドから73名の研究者などが参加しました。フィンランドは、北海道よりも面積は約4倍も大きいですが、人口は北海道とほぼ同じくらいの国です。

シンポジウムでは、「サービスデザイン」、「高齢社会」、「観光」等を切り口に5つの分科会が行われ、私は「北方圏における縮小 (shrinkage)」をテーマとする分科会に出席しました。分科会では、両国の代表者が人口減少、エネルギー、健康などの課題や研究についてプレゼンテーションを行い、お互いの現状を共有し課題を整理しました。その後、私たちは何をすべきか?ということを中心に議論し、とても活発な議論が行われました。ちなみに、議論はすべて英語で行われました。私は議論に付いていくのに精一杯になる時が多々ありましたが・・・、拙い英語を用いて頑張りました。私にとってはこのような経験は初めてであったため、とても良い刺激を受けることができました。

議論を通して私が感じたのは、北海道とフィンランドは、国は違うが中心となる都市に人口が集中し、小規模な町では人口減少が進むなど課題や問題に共通点が多いこと。また、課題や問題をネガティブにとらえるか、それともポジティブにとらえるかによってアプローチや解決策が全く異なること。さらに、標準化した一般解を得るよりも地域性を考慮した解を得ることの重要性を感じ、自分自身の研究姿勢について自問自答するよい機会になりました。

今後はポジティブな視点を磨きつつ研究を行っていくとともに、今回フィンランドに行ってきた国際ネットワークを活かした研究ができるよう、努力したいと思います。

(居住科学G 阿部)

=====
研究紹介「道内自治体の住替え推進施策支援に関する研究
—その3 住基台帳を用いた住民転出入動向の把握—
=====

今回は「道内自治体の住替え推進施策支援に関する研究」その3として、住替え推進を検討する上で最も基礎となる住民の動向を把握する手法をご紹介します。

住宅種類や数の需要がわからないまま供給すると空き家リスクを抱えることにもつながりかねません。そこで本研究では、南幌町を対象に住民基本台帳を分析することから、町内の住宅需要を把握しました。住民基本台帳からは、直前の住所、現在の住所、家族構成、転出した人の町内での住所と転出先がわかり町内での住替え実態や結婚独立などによる世帯分離についても把握することが

できます。

南幌町では、多くの高齢者が札幌市に転出していることが明らかとなりました。除雪の大変さからマンションに移る場合や、施設等に入居する場合が考えられます。人口減少が進む中で、一人でも多くの方に町内に住みつけてもらうために、やはり何かしらの高齢者向けの住宅が求められるでしょう。

一方で、転入元をみると、札幌市だけでなく近隣の自治体からの住替えも多いことが分かりました。また、町内での住替えや世帯分離が予想以上に多くありました。これにより町外から転入した世帯が、一旦賃貸住宅に住み、その後町内で持ち家を取得するというシナリオがあることが明らかとなりました。

この結果は、町内の土地や中古住宅の販売ターゲットの想定、空き家バンク活用の施策検討に活かされました。

自治体担当者のみならず、住民基本台帳データは、住民の転出入動向をはじめとして様々な実態を把握することのできる有用なデータです。北総研では分析方法などのノウハウをご提供できますので、お気軽にご相談ください。

(居住科学G 馬場)

=====
最近の研究所の動き
=====

■【ジャパンホーム&ビルディングショー2014に出展しました】

平成26年11月12日(水)～14日(金)、東京都「東京ビッグサイト」にて開催された「Japan Home & Building Show 2014」に参加しました。

北海道では、道建設部を中心として、道内民間企業・団体・道総研などが「北海道グループ」として一丸となり、本道の住宅建築技術や道産建材の全国への販路拡大や情報発信を行っています。

今年は、道産木材を活用した建材、構法等に関する出展が多かったのですが、他県からも同様の出展が多く、地域材の住宅への利用拡大が全国的に課題とされていることを強く感じました。

本年は、道や道総研の取り組みについて、他県の出展者に対してより積極的にPRすることにより、道内企業の販路拡大にもつなげていきたいと考えております。

参照：<http://www.jma.or.jp/jhbs/index.html>

(企画課 清水)

■【道総研オープンフォーラムに参加しました】

平成26年11月27日(木)に札幌の東京ドームホテル札幌で第2回道総研

■各種お問い合わせメールフォーム

<http://www.nrb.hro.or.jp/sendmail.html>

ご登録いただいた情報は、メールマガジンの配信及びイベント情報の配信を目的として利用し、それ以外の目的に使用することはありません。

発行：(地独) 北海道立総合研究機構 建築研究本部 北方建築総合研究所